

● 減少を続ける子供人口

総務省は5月4日、2019年4月1日時点の14歳以下の子供人口の推計結果を公表した。外国人を含めた14歳以下の人口は1,533万人と前年より18万人減り、比較可能な1950年以降、過去最少を更新した。減少は38年連続。総人口に占める割合も同0.2ポイント低い12.1%で、45年連続で低下した(表1)。

表1 男女別こどもの数

		2019年 4月1日現在	2018年 4月1日現在	対前年 増減数
こどもの数 (万人)	男女計	1533	1552	-18
	男	785	795	-9
	女	748	757	-9
		人口性比	105.0	0.0
総人口 (万人)	男女計	12623	12650	-27
	男	6143	6155	-13
	女	6480	6495	-15
		人口性比	94.8	0.0
総人口に占めるこどもの割合(%)		12.1	12.3	-0.2

注) 表中の数値は、単位未満を四捨五入しているため、合計の数値と内訳の計が一致しない場合があります(以下同じ)。

子供人口は1989年(平成元年)の2,320万人から787万人、3割超減った。ピークだった1954年の2,989万人と比べるとほぼ半減している。出生児数の減少による少子化の流れが続いている。

都道府県別(2018年10月1日時点)では、東京都が8千人増加、沖縄県が横ばいで、そのほかの45道府県では減少した。子どもの割合が最も大きかったのは沖縄県の17.0%で、最小は秋田県の10.0%だった。

